

# 『建築設備士の勉強会を総括して』

(株)カナエ設計事務所

富田 健二

我が国は高齢者社会を迎え、福祉と社会保障が関心事となっております。  
我が設備協会も設立から30数年を経過し、各事務所の高齢化が進み、所長の平均年齢も63.5歳となりました。

今後高齢化で仕事を辞めていく会員が増え、このままの現状では数年で協会の存続が危ぶまれます。新しい会員の確保のためにどうしたらよいかを協会の業務委員会で話し合い、各事務所の所員教育を促進していくことが今一番必要なことではないかと意見がまとまりました。

多くの会員が建築設備士資格を取得して、その後一級建築士、設備設計一級建築士の受験を可能にすることで事務所の存続および所員の独立が成し遂げられます。そして独立した所員が新たに我が設備協会会員として参加して戴くことで、協会員の増加を図り、協会がますます繁栄していくこととなります。

ですから次世代を担う若い所員には質の高い仕事を遂行出来るようにすること、後継者として1日も早く必要な資格を取得して自信を持って独り立ちできるよう育てていくことが急務であるという結論に至り、所員のための勉強会を開くことになりました。

今年の設備士の試験日は6月末に行われますので3月末より毎週土曜日全部で11回にわたり勉強会を開催しました。内容は空調・換気2回、給排水2回、建築一般1回、建築法規1回、電気2回、残りの3回を過去問題復習として実施しました。講師は機械設備と建築をカナエ設計事務所所長の私(富田)と電気設備を佐藤設備設計所長:佐藤氏が担当することになりました。

初回は9名のメンバーが参加しましたが、回が進むにつれ仕事と両立が難しくなり、欠席者が多くなりました。最終的には6回以上の参加者は結局4名程度になってしまいました。

最終結果は残念ながら1名の合格者でした。

勉強会を総括しますと受験希望者は各事務所で中心的に仕事を任せられ活躍しており、時間的に余裕がなく勉強するのもままならない状況があります。

受験前の3か月は家庭・事務所両方から、時間的にも経済的にも支援していただき、勉強する環境がもう少し整えられればいいのにと感じました。

本人達は自分の将来のキャリアのために全力投球で受験勉強に取り組み高い目標を持ち、短期決戦で臨んでいただきたいと思いました。「また来年試験がある。」と思うことで合格が遠のいてしまいます。

各事務所の所長の資格に関する意識の低さにも問題があると感じました。

今後経済社会が厳しくなり、行政では資格取得要件が厳しくチェックされ、仕事をするうえで必須になっています。

今こそ若い所員を育て独立できる力を持たせ、我が設備協会を盛り立てていこうではありませんか!

この勉強会のために私も基本から再度勉強し直して気づいたことがあります。  
今までの古い単位から国際単位への移行により公式がすべて使えなくなり、新しい公式を覚えなければならなくなりました。時代が速いスピードで変化しています、時代に乗り遅れないためにも勉強することの大切さを実感いたしました。